



ほけんだより

平成23年11月 第132号



インフルエンザについて

1 感染

インフルエンザの感染力がどれほど強くても、免疫を得た人が多い集団では、流行しなくなるはずですが、それなのになぜ、インフルエンザは毎年流行するのでしょうか？

考えられる理由は、

- 潜伏期間が短い（平均2日）。
- くしゃみ・咳により、多量のウイルスが、約1週間も排泄される。



- 多くの有症者が動き回る。



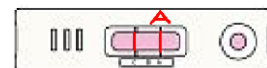
- 抗原不連続変異（大変異）、抗原連続変異（小変異）を起こし、ウイルスの型が変化しやすい。



インフルエンザと風邪の一番の違いは、爆発的な感染力です。感染者が多くなり、重症者もそれに比例して増えることから、社会として大きなダメージを受けることとなります。

2 診断

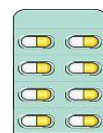
軽症者も多く、臨床的には困難で、キットによる検査結果に依存することになります。検査時期によって検査の陽性率が低くなり、発症後1日以内の検査では陰性であったのに、翌日になると陽性になることも、しばしば見受けられます。検査は1度の感染に対し、2回までしか医療保険が認められていないため、発熱後すぐに検査を受けることを控える必要があります。



インフルエンザと診断された場合、呉市の保育園・幼稚園マニュアルでは、登所（園）基準を、解熱後3日を経過した後と定めています。

3 治療

抗ウイルス薬を用います。抗生物質は、インフルエンザウイルスには効果がありません。



安静



栄養・水分

インフルエンザもほかのウイルス感染症と同じように、自然経過で軽快する病気です。健常者の場合、必ずしも抗インフルエンザ薬が必要なわけではありません。

また、タミフルと異常行動の関係はいまだ明確ではなく、現在でも10歳代患者への投与は、差し控えることとなっています。抗ウイルス薬は原則として、重症化しやすい人、合併症を起こしやすい人を中心に用いる薬と考え、効果、副作用を十分理解して処方してもらうようにしましょう。

4 予防



インフルエンザの予防で最も効率が良いのは、**予防接種**です。

今年から、子どもに対するインフルエンザワクチン接種量が変わりました。また、6ヵ月未満の子どもには接種できなくなりました。

予防接種について、主治医とよく相談してください。

感染の拡大防止には、**咳エチケット**が重要です。マスクなどは、自らの感染予防というより、感染の拡大防止に有用です。

★咳やくしゃみを、
人に向けてしない。



★咳やくしゃみをする時は、ティッシュ
などで、口と鼻を押さえましょう。



(ティッシュは、すぐに
ゴミ箱に捨てましょう。)

★他の人にうつさないように
マスクをしましょう。



★外出後は、うがい・手洗いをしましょう。



ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>